編集ノート

★「老残遊記」が『繡像小説』に掲載されて本年で100周年をむかえた。ということは『繡像小説』創刊100周年でもある。商務印書館と日本の金港堂が合弁してこれも100周年になる。『新小説』が日本で創刊されて、昨年で100年目だった。これと同じく特別に特集などは組まない。本誌が刊行されつづけていることが、清末小説研究全体にとっては記念のようなものだ。だからこそ毎号「発行記念」とうたっている★本号には翻訳関係の論文が２本掲載される。紙幅を取っているように見えるかもしれない。だが、翻訳小説研究は、今まで研究者の視野にはほとんど入っていなかった。ただし、例外はどこにもある。香港中文大学には専任研究者のいる研究機関がある。日本文学の分野から探求を続けていた中村忠行氏の一連の論文は、今でも色あせていない。郭延礼氏の概説も刊行されており貴重だ。しかし、清末民初時期に発表された翻訳小説は、数が多い。すこしの専門家では、とてもカバーはしきれない。重要作家、作品が埋もれたままになっているというのが現状だ。すこしでもそれを発掘したいと考えている。手間ヒマがかかるから気長にすすめるよりしかたがない★「清末小説研究資料叢書」は、４『官場現形記資料』、５劉徳隆著『清末小説過眼録』、６『老残遊記資料』を出版した。貴重な資料ばかりを収録している★中国の斉魯書社から出版された『新編増補清末民初小説目録』が再版となった。広く利用できる環境が整ったということだろう★日本・汲古書院から拙著『清末小説叢考』が出た。「劉鉄雲「老残遊記」と黄河」、「劉鉄雲は冤罪である」などを収録している。新しい知見もつけくわえたので参考になればさいわいだ★本年３月にはイラク戦争があった。つづいて、中国発の新型肺炎がこれほど流行しようとは誰も想像はしない。予定の変更を強いられたことだった㊀

清 末 小 説　第26号
定価　本体3000円＋税
発行　2003年12月１日
発行兼編集人　樽本照雄
発行所　清末小説研究会
〒520-0806JAPAN　滋賀県大津市打出浜
８番4-202 樽本方
郵便振替　00990-6-40475
http://www.biwa.ne.jp/~tarumoto
印刷所　木村桂文社